右京区基本計画策定委員会
第４回　地域活動と安心安全のまちづくり部会（摘録）

日　時：　平成２１年１２月１１日（金）
午後１時３０分～午後３時３０分
場　所：　右京区役所５階会議室１
出席者：　永橋部会長・高岡委員
高屋委員・中川委員
中沼委員・松井委員
宮崎委員

オブザーバー
寺本演夫氏
（社会福祉法人嵐山寮　理事長）

次期基本計画に盛り込む具体的取組について

１．高齢者が地域で自立して暮らせる社会・地域づくり

●お年寄り世帯を上手くサポートしながら皆で助け合っていけるような地域づくりが出来ないものかと思い，家庭訪問を続けて関係づくりに取り組んでいる。
●プライバシーも守っていきたい思いがあり，民生委員以外の人が立ち入りにくい。
●回りがきめ細かくサポート出来るような支援体制が組めないものかと思う。
●足繁く通わないと関係がつくれない。
●民生委員だけでは手が足りない。
●高齢者の問題は早急に地域ごとに話し合うことが必要だ。
●良いシステムは出来ていても，民生委員が替わると受け入れて貰えないという難しさがある。
●民生委員というオーソライズされた立場が結構大事だ。
●民生委員の方々が継続して関係を持てるようにしなければならない。
●民生委員自身が高齢化していて疲れてきているという問題がある。
●地域福祉推進委員や老人福祉員に状況を聞きながら，一人暮らしのお年寄りを対象に配食サービスを年に２回実施し，現在８０％の方が利用している。
●知らない人が訪問しても拒否されることがあるが，配食サービスを通しコミュニケーションがとれる。また，手作りなので金銭的な負担も少ない。地域で繋がりをつくっていければ孤独死も防げるのではないかという思いで重点的に活動している。
●高齢者宅への訪問が難しいと言う話があったが，食で繋がることは，出会う場になり孤立死を防ぐことも担っている。「食」は環境とか地産地消とも繋がると思った。
●３６５日２４時間ケアへの安心感から特養（特別養護老人ホーム）の待機者が増大している。
●特養の待機者を減らす新しいサービスとして，小規模多機能型施設が期待されているのだが，登録人員に制限があり，１～２年目は赤字，３年目でようやく経営が軌道に乗る状況なので，手がける事業者がいない。このままでは，この事業は広がっていかない。
●小規模多機能型施設は単品でサービスを受けるときに比べ，利用しなくても１割負担になることに納得いかないようだ。特養に入ったのと同じ状態を在宅につくりだすわけだから，介護度に応じた１割負担が発生する。

●小規模多機能型施設は夜中でも利用できるなど，特養に入ったのと変わらない状態になる。普及すると状況が変わってくるだろう。
●高齢者とのコミュニケーション能力を高めるには，傾聴ボランティアのように，できるだけ話を聴いて受けとめてあげると良い。福祉施設に来る実習生のアンケートを見ても，高齢者とのコミュニケーションが難しかったと書いていることが多い。
●１０年後を見据えると生涯スポーツの振興が大事だ。
●ニュースポーツの普及により６０歳以上の方が非常に多く活動されている。
●「価値観を変えてみよう」という提案が出ているので，体育を「からだそだて」と捉えて取り組むことができるのではないかと思った。
●昔は競技スポーツ中心だったが，それだと参加できない人も多いので体育祭では年齢を問わず参加できるよう工夫している。しかし，競争意識を持たないと面白くない面もあるので，体力のない人も楽しめるよう頭を使う種目を入れたりして，幅広い年齢層の方々に体育祭を楽しんで貰っている。

２．地域住民相互の関係づくり（次世代への継承）

●小学校は選挙で地域の人が必ず訪れる。そこで仕掛けをしていくのは非常に効果がある。
●来年（平成２２年）１月から小学校の教室を利用しカフェを開く。世代を超えた人の触れ合いや人の繋がりができるのではないかと思っている。この取組が地域の起爆剤になり，予期しないような人の繋がりや活動に発展することを期待している。
●カフェを通し，これまで顔を会わせたことのない人同士の交流が生まれるはずだ。
●出会いの場をデザインすることは大事だ。
●体育祭への参加人数を調査したところ，２２学区で３万人，右京区の人口の１５％弱が参加している。１割以上もの参加があるということは，我々の取組は「地域住民相互の関係づくり」や「地域活動の活性化，担い手確保」に非常に大きな役割を果たしているといえる。
●各学区にそれぞれ違った課題があり，逆にそれを生かしたものを工夫していくと新しい出会いの場になると思った。
●京都の全学区で防災訓練を行っているが，やるなら本当に役立つ防災訓練をしたほうがいい。
●夜間に地震が発生した際の受け入れ訓練はどこもやっていない。例えば，体育館を開放しても誰が受け入れ体制をつくるのか，自家発電で照明がつくのか，といったことを知っている必要があるので，夜の防災訓練を始めた。電気を全て消して懐中電灯だけで行っている。
●他の行政区でも，夜の避難訓練をして体育館で避難所生活を体験したところがある。
●御室小学校のＰＴＡが，夏は親子で学校に宿泊してキャンプファイヤーをしたり，春は校内のしだれ桜の花見をしたりして小学校を地域の人に開放している。夜の学校を楽しんでもらう意味もある。夜の行事は少ないので，地域の人も楽しんでくれている。
●親は夜間に子供を外出させるのは不安なので，ＰＴＡが主催しているというのが重要な点だ。
●広沢では毎年１０月に，敬老と区民の集いということで学校を使って大がかりなイベントを開催している。午前中に小学校の日曜参観と敬老の集いを同時開催し，敬老の集いでは子供達の発表もある。また，保護者と子供達がその後のイベントにも参加する。恒例化したことで年々参加者が増えている。
●中学生にもグランドゴルフを教える機会をつくっていて，高齢者が楽しめる行事へ若者が参加しやすい取組をしている。
●楽しめる恒例行事は幅広い世代が集まり繋がるきっかけになる。

●地域の方に対して，例えば，社協のスタッフの方々に講師になってもらい，信頼関係を築くコツなどを教えてもらうことは可能なのか。そういう人的交流，技術的交流ができれば面白いと思う。

３．地域活動の活性化，担い手確保

●楽しいことをやっていく中で担い手が育っていくのを待つことも大事だ。
●若い世代と活動しているなかで気付いたことだが，団体の中で人間関係が上手くいかず，やる気を失くして辞めてしまう人がいる。そういう人材はもったいないので，私の団体はそういう人達の受け皿になっている。人には必ず良いところがあり，どこかの団体に所属していた人はやる気はある。必ず誰か気が合う人がいるし，その人でないとできないことも必ずある。その人に合った仕事を任せれば頑張って取り組んでくれる。
●体振を３０年以上やっているが，若い人に役員を任せると３人に１人は人間関係が上手くいかず辞めてしまう。
●地域に人材は沢山いると思う。人材を探すのは大変でも，活動をしていくなかで前向きになってくる人もいる。やはり，人を惹きつけるような活動をすることが大事だ。
●問題を抱えて助けてほしい地域と，地域を助けられる専門性を持ったＮＰＯとを結びつけるコーディネーターがいるといい。
●以前，大学から協力を申し出られたが，先生や学生が変わると関係が途切れてしまい継続した活動が出来ない。

重点的な取組について

●皆さんはどの取組も大事だと思っておられるようだ。いくつかに絞るのではなく，発想を大事にするほうが良い。皆さんは人と人が出会う場づくりをされていて，その中で新しい人と出会うこともあるのだろう。場と人を大事にすることで新しい芽を育てていこうという発想は，全てに共通していると思った。
●人を大事にし，場を大事にし，新しい出会いを大事にして，繋がっていくということが右京の強さであり魅力なのではないか。取組は無限に出てくるだろう。
●交流の場を通しお互いを知るということでは，インターネット上の場だけでなく，実際に顔を合わせる場というのが重要だ。
●活動を継続する力がつくられている地域は強い。継続する力がないのは，地域力が上手く育っていないからだ。
●右京全体で考える視点が大事になる。